

令和6年度第1回八雲総合病院運営検討会議 会議録（要旨）

開催日時 令和6年11月14日（木）14:00～14:30

開催場所 八雲総合病院講堂

出席者 委員：伊藤委員、大野(博)委員、山田委員、安田委員、
大野(尚)委員、石田委員（院長）
事務局：竹内事務長、長谷川庶務課長、佐々木地域医療連携課長、
加藤医事課長、馬場経理係長

傍聴者 無し

会議要旨

1. 開会（事務長）

2. 挨拶（石田院長）

3. 議事「令和5年度決算状況について」

馬場経理係長説明

委員：

人件比率が高いが、今後どうしていくつもりか。診療科別の外来患者数はどうなっているのか。病床稼働率はどうなっているのか。

事務局：

確かに高いが、急激な費用の削減は難しい。国も賃上げの方向に動いている。そのため、収益を上げるための努力が必要。医療圏の各自治体・病院に対してPR活動を強化していく。

各診療科の外来人数は、内科 27,536 人、循環器内科 5,358 人、外科 4,725 人、透析 5,192 人、整形外科 36,964 人、産婦人科 3,379 人、小児科 10,187 人、眼科 7,465 人、精神科 13,794 人、耳鼻咽喉科 6,556 人、皮膚科 9,215 人、泌尿器科 4,375 人、脳神経外科 2,588 人、計 137,334 人。

病院全体の病床利用率は 61.7%。

委員：

内科が要だと思うが、医者や患者を増やせないのか。

座長：

最近では医局に入る医師も少なく、いくら医局に要請しても派遣してもらえないのが現状。そのため、個人個人に声をかけて来てもらわないといけない。

出張医の賃金は高く、給与費も高くなるが、医師が見つからない以上仕方ない部分もある。人口減の影響も大きいので、今後は病院の縮小を考えていかなければならないと思う。

事務局：

内科医師の確保について、最近では民間の紹介会社も利用して探している。内科医確保に向けて努力していく。

委員：

ポリペクトミー（内視鏡的ポリープ切除術）等の内視鏡手術は出来るのか。

事務局：

内視鏡も常勤の専門医が確保できていないが、月曜日と金曜日に毎週出張医に来てもらっている。毎週ではないが、他の曜日にも医師派遣で対応している。

そのため、曜日が限定されるが手術は出来る。違う曜日で緊急性を伴う場合は市立函館病院に行ってもらえるなどの対応になる。

委員：

高齢者施設でもベッド稼働率が上がってきていない。特に特養は全国的にも8割以内になっていたりする。有料老人ホーム等が増えたことにより、そういうところに高齢者が流れ、特養や介護施設に入る人が減っていると分析している。

ベッド稼働率が上がっていかない理由にコロナ禍もあるが、他に何が要因と分析しているか。

事務局：

やはり圏域の人口減が一番の要因と考えている。八雲町も合併当初は2万2千人程度いたが、今は1万5千人を切るような状況になっている。他の病院の病院長や事務長と情報交換をしているが、同じように患者確保に苦勞している。

日常生活ではあまり感じないが、数値上は間違いなく減少しているため、ベッド稼働率に大きく影響していると思う。

4. その他

委員：

令和6年度の決算見込みはどうなっているか。

事務局：

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、今年度は交付金が全くなく、大変厳しい状況。経営悪化が見込まれている。少しでも損失を減らせるよう、努力していく。

5. 閉会

以上